

■ 鹿児島県議会議員 しもづる隆央「マニフェスト100(2015年版)」評価表(2018年12月議会終了時点)

I 鹿児島に稼げるしごとをつくる。

(1)新しい産業・仕事をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
1	IT・コンテンツ産業の振興	A	・IT関連産業の振興について、一般質問等で提案しました。 ・スマート農業やIoTの県内企業への普及に向け、技術者の育成・確保について委員会等で提案しました。
2	「会社をつくるやる気がある人」を全力で支援します。	A	・戦略的な企業支援に向けて、起業家がどのような支援を必要としているか現状分析を行ったうえで十分な支援策を行うよう、一般質問等で提案しました。 ・起業マインドの育成に向け、小・中・高校生を対象とした企業教育プログラムを行うよう、一般質問等で提案した。 ・従来の起業支援策をより実効性あるものにするために、追跡調査やそれに基づく政策のブラッシュアップについて、委員会で提案しました。
3	中小企業振興を推進します。	C	・1期目にプロジェクトチームで起草者の中心となった中小企業振興条例について、一部改正に取り組みました。今後は進捗をしっかりと注視し、さらなる取り組みを行う必要があります。
4	知的財産の活用を支援します。	A	・海外における商標など知的財産権の登録並びに侵害対抗費用助成が重要であるとして、一般質問で提案しました。 ・本県が誇る農畜水産物について、にせもの対策のためにDNAを活用した品種識別技術の開発について、一般質問で提案しました。
5	試験研究を充実させます。	A	・農業、畜産、林業、水産、工業の各公設試験研究機関について、県単試験研究費の確保について一般質問等で提案しました。 ・種子法廃止に際し、本県では引き続き品種開発を行うべきこと、事業費を確保すべきことを、鹿児島県議会で初めて提案しました。
6	県出身者との連携強化を進めます。	A	・県出身者と県産品のPRや観光誘客などでもっと連携をとるべきと、一般質問で提案しました。 ・鹿児島県人世界大会の継続的開催と、ネットワークの維持拡充について、一般質問で提案しました。
7	「薩摩大使」への支援強化を行います。	A	※No6「県出身者との連携強化を進めます。」に記載。
8	ふるさと納税を集める取り組みを進めます。	A+	・返礼品ありきではなく、「思い入れ」を高める形のふるさと納税に取り組むべきとして、「もっと細かい単位で用途を指定できるようにすべき」などを一般質問で提案しました。 ・県立高校(普通教室)へのクーラー設置について、従来財源の問題で進んでいなかったが、用途指定型のふるさと納税を活用することを、県が検討することとなりました。
9	奄美に稼げる仕事をつくります。	A	・奄美群島の観光振興に向け、奄美空港のインフラ整備について一般質問で提案しました。 ・奄美群島に適した作物・栽培方法の試験研究や普及指導の充実について、委員会で提案しました。
10	川内原発周辺の産業創出を行います。	A	・川内原発の周辺の産業振興、特に原発に頼らない産業振興を行うべきとして、委員会で質疑を行いました。

(2) 真の「かごしまブランド」を確立し、稼げる農林水産業をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
11	「かごしまブランド」の確立へ向け、消費者の認知度を高めます。	A	・「輸出に向けた各種認証の取得状況、促進策」「JGAP取得に向けた体制整備」「GI登録の促進」等について、一般質問・委員会等で提案しました。
12	焼酎を含めた鹿児島県の食文化を輸出します。	A	・輸出規制(非関税障壁)の撤廃に向けた交渉を国において取り組んでもらえるよう、県としても強く要望すべきことを一般質問等で提案しました。 ・海外では焼酎に比べ日本酒が好調であることから、輸出関税の比較や、関税面で不利に陥らない取り組みについて質疑を行うとともに提案しました。
13	「稼げる農業」実現へ、農地の集約化を進めます。	A	・地籍調査の進捗について質疑を行うとともに、相続未登記農地の解消に向けた取り組みを加速するよう、委員会で提案しました。
14	新たな作物・品種の導入を進めます。	A	※No5「試験研究を充実させます。」に記載。
15	「かごしまのさかな」輸出促進を行います。	A	・水産物の輸出に関する登録・認証の促進について、一般質問で提案しました。
16	養殖魚種多様化に取り組めます。	A	・新たな魚種の導入に向けた試験研究に取り組むべきことを、委員会で提案しました。
17	県産材(かごしま材)の高付加価値化、競争力アップに取り組めます。	A	・国産材だけでなく「県産材」に着目した需要拡大策の必要性について、委員会で提案しました。
18	木材(県産材)の輸出を進めます。	A	※No17「県産材(かごしま材)の高付加価値化、競争力アップに取り組めます。」に記載。
19	シイタケなどの特用林産物の活用に力を入れます。	A	・各種特用林産物の中で、本県がどの分野で勝負するかという戦略・方向性について、委員会で質疑を行いました。
20	竹の活用に力を入れます。	A	※No19「シイタケなどの特用林産物の活用に力を入れます。」に記載。
21	鳥獣被害対策を進めます。	A	・国のモデル事業のさらなる活用に向けて、「既存の事業者が交付金を活用しなかった理由」「必要な条件整備について、市町村側の意向」等について、委員会で質疑を行いました。
22	県民総ぐるみの家畜防疫対策に取り組めます。	A	・空港やクルーズターミナルにおける防疫の強化について、委員会で提案しました。

(3)国内外から誘客できる国際都市KAGOSHIMAへ。稼げる観光業をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
23	イスラム教徒向け「ハラール」対応の取り組みを加速させます。	A	・「ハラール」対応の取り組みを加速させるよう、一般質問等で提案しました。
24	Wi-Fi環境の整備を図ります。	A	・県管理空港や観光地でのWi-Fi環境整備について、委員会で提案しました。
25	ネットを活用した観光誘客を加速させます。	A	・多言語対応のホームページ整備を、委員会で提案しました。
26	県民交流センターの活用	B	・さらに様々なイベントで活用して頂けるよう、駐車場の「主催者枠」拡充を提案しました。
27	国際会議・各種大会の誘致を進めます。	A	・MICE誘致に向け「他都市との差別化」「会場費用の減免等の支援策」などについて、一般質問で提案しました。
28	鹿児島を舞台としたコンテンツの制作振興	C	・1期目の取り組みに引き続き、必要な予算が確保されるようチェックしてきました。今後は進捗をしっかりと注視し、さらなる取り組みを行う必要があります。
29	鹿児島空港の戦略的活用	A+	・運用時間の延長を提案した結果、25年ぶりに運用時間の1時間延長が実現しました。 ・分譲率が低迷する臨空団地の活用に向け、用途緩和を一般質問等で提案しました。
30	各県と連携した外国人観光誘客・国際線拡充	A	・他県と連携した旅行商品の造成等について、一般質問で提案しました。
31	鹿児島在住経験外国人のネットワークを構築します。	A	・外国人留学生に本県の魅力を発信してもらおうとともに、外国人の視点から観光施策に提言を頂くべきと、一般質問で提案しました。
32	体験型観光を進めます。	A	・農業体験等を伴う、体験型の民泊について促進するよう、一般質問で提案しました。
33	伝統的工芸品振興	B	・1期目の取り組みに引き続き、伝統的工芸品議連で活動するとともに、毎年第1回定例会での紬着用、メゾン・エ・オブジェ(パリ)視察などにも取り組みました。
34	奄美の世界自然遺産登録に向けて	A+	・奄美の世界自然遺産登録に向けた機運を高めるため、独自の生態系やその貴重性などがわかる自然史博物館の整備を、委員会で提案しました。

(4)スポーツを活かしたまちづくり。活気ある鹿児島をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
35	Jリーグホームスタジアム整備	A	・J3、J2昇格に必要なスタジアム環境の整備を何度も提案し続け、実現しました。 ・J1基準に合致するスタジアムを整備し、アジア・世界に「KAGOSHIMA」の名前を発信するため、スタジアムの立地条件(街中)に関する議論、ドルフィンポート周辺からの排除方針への異議など、再三にわたり徹底的に議論を行い、県議会でのスタジアム議論を先頭でリードし続けてきました。
36	プロスポーツホームゲームの盛り上がりをつくります。	A+	・スタジアムグルメなどホームゲームの盛り上がりを作るため、従来出店では火気使用が禁止されていたが、解禁を提案し実現しました。
37	鹿屋体大と連携したスポーツ合宿の誘致	C	・1期目の際の提案に引き続き、実際に視察に伺い、今後の政策提言を検討しています。
38	プロ野球2軍・3軍チームの誘致	Z	※現在本拠地移転を検討するチームがなく、県内でも誘致の動きがないことから評価対象外とします。

Ⅱ 将来にわたって、安心して生活できる鹿児島をつくる。

(1) 医療・福祉をはじめ、安心して生活できる鹿児島をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
39	医師確保のため、あらゆる策を講じます。	A	・医師確保に向け、県出身者等に同窓会や県人会を通してアプローチすることを、委員会で提案しました。 ・女性医師の復職支援について、ニーズの把握を含め積極的に取り組むべきことを、委員会で提案しました。
40	医療従事者の確保を進めます。	A	※No39「医師確保のため、あらゆる策を講じます。」に掲載。
41	薬害に対する治療支援を進めます。	A	・子宮頸がんワクチン副反応の被害者救済のため、委員会質疑等取り組みました。
42	徹底した認知症予防を図ります。	A	・高齢者の一人暮らしが多い本県において、認知症の早期発見のために民間事業者との連携を、委員会で提案しました。 ・若年性認知症の対策について、委員会で質疑を行いました。
43	認知症患者の家族を守ります。	A	・24時間対応の精神科救急について、委員会で質疑を行いました。
44	健康診断受診率を向上させます。	A	・特定健診やがん検診の受診率向上に向けて、受診率が低い年代・地域・性別等の要因分析を行ったうえで、効果的な向上策を行うべきことを、委員会で提案しました。
45	難病患者支援を進めます。	C	・1期目の取り組みに引き続き、必要な予算が確保されるようチェックしてきました。今後は進捗をしっかりと注視し、さらなる取り組みを行う必要があります。
46	むし歯ゼロを目指し、歯の健康づくりを進めます。	A	・在宅歯科医療の推進に向けて、機器整備や多職種連携の在り方について、委員会で提案しました。
47	谷山緑地を、健康づくりの場としてさらに活用します。	A	・谷山緑地が整備された経緯(臨海工業地帯の埋め立てに伴う代償措置)をしっかりと踏まえ、県の財源不足に伴う臨海環境整備基金の廃止後も従来と変わらず維持管理の財源を確保すべきことを強く主張し、県も変わらず取り組んでいく方針であることを委員会の場で確認しました。
48	県立短大を、生涯学習の場としてもっと活用します。	A	・四年制大学化を含め、「卒業生がどの分野で活躍し、職を得ていくための教育を行っていくか」委員会で質疑を行いました。
49	犯罪被害者支援を進めます。	A	・再犯防止推進計画の策定にあたり、社会全体で出所者等の支援を行うためには、まずは被害者の支援も同等以上に手厚く取り組むべきであることを主張し、計画にも盛り込むべきことを委員会で提案しました。
50	動物愛護:殺処分ゼロを目指して	C	・1期目の取り組みに引き続き、必要な予算が確保されるようチェックしてきました。今後は進捗をしっかりと注視し、さらなる取り組みを行う必要があります。

(2)安心できる子育て支援をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
51	乳幼児医療費助成制度の現物給付	A+	・1期目から「県の支出がふえないという条件であれば、希望する市町村には現物給付の実施を認めるべき」と再三指摘してきましたが、知事交代後「乳幼児医療費の、住民税非課税世帯の現物給付化」は実現しました。
52	「貧困の連鎖」を防ぐために取り組みます。	A	・陳情審査にあたり、養育費の支払確保について、公正証書化や法テラスでの裁判費用の支援など、法的なアクセスをしっかりと提供していくよう要望を行いました。
53	児童養護施設からの自立支援	A	・1期目に引き続き、実際に児童養護施設を視察し意見交換を行うとともに、「就職をする、家を見つけて、そして新しい人間関係を築いていく、やはりここまでしっかりと寄り添って社会に旅立たせる必要がある」ことを、委員会で要望を行いました。
54	発達障害の療育支援を行います。	C	・1期目の取り組みに引き続き、必要な予算が確保されるようチェックしてきました。また、実際に子ども総合療育センターを視察し、また担当医師の方々にお話を伺うなど、最新の実情把握に努めました。
55	通学路の安全確保を進めます。	B	・地元からの相談に対応し、各地で取り組みを行いました。
56	特別支援学校の安全確保とIT教育	B	・教育現場でのICT活用を提案し続けた結果、特別支援学校でのICT活用モデル事業が実現しました。
57	いじめ対策	B	・1期目の取り組みに引き続き、必要な予算が確保されるようチェックしてきました。
58	危険ドラッグを徹底排除します。	Z	※販売店が撲滅されたことから、評価対象外とします。引き続き動向を注視します。
59	災害用備蓄食料のアレルギー対応を進めます。	A+	1期目の質問に基づき県が備蓄した災害用食料1万セットのうち、半分の5千セットが、アレルギー対応のものを備蓄することが実現しました。

(3)将来稼げる仕事に就くために、どこに行っても稼げる力を持つ「たくましい鹿児島の子」をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
60	キャリア教育の充実を図ります。	B	・起業マインドの育成に向け、小・中・高校生を対象とした企業教育プログラムを行うよう、一般質問等で提案しました。
61	社会人経験教員の採用をふやします。	C	・1期目に政策提言を行いました。さらに取り組む必要があります。
62	プログラミング教育を実施します。	A	・教育現場でのICT活用や、離島・中山間地域において、ICTを活用した授業配信を行うこと、またプログラミング教育など新たな技術を積極的に活用し、教育の質を向上させることを、一般質問で提案しました。
63	離島・へき地での教育に、IT・インターネットを積極的に活用します。	A	※No62「プログラミング教育を実施します。」に記載。
64	専門高校の地域との連携を強化します。	C	・1期目に提案を行いました。さらに取り組みを行う必要があります。
65	「外国人の友達を作ろう！」	A	・「(来訪した)外国人と触れる接点を学生を含む若者に対してつくっていくこと」「(教育旅行の誘致により)来訪した外国の生徒たちと本県の児童・学生との交流プログラムを設けること」など、一般質問で提案しました。
66	青少年の海外派遣、留学支援を広く行います。	A	・県が行う青少年派遣事業について、もっと広く周知・広報を行い、機会が平等に得られるよう再三提案を行った結果、若干ではあるものの競争率が向上しました。 ・学生など若年層に対し、鹿児島空港国際線利用時のパスポート代補助を委員会で提案した結果、まずはニーズ把握のための学生アンケートが実現しました。

Ⅲ チャンスは平等に。頑張る人が・子どもたちが報われる鹿児島をつくる。

(1)子どもにツケを回さない。税金の使い道を、費用対効果を、しっかりと考える鹿児島をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
67	政策評価を充実させます。	A	・EBPMの考え方に基づき事業の見直し、組み換えを行うべきであること、またその判断に当たっては政策の根拠と成果を、全ての事業について統一様式でわかりやすく公開すべきことを、一般質問で提案しました。 ・統計やデータを的確に分析できる人材の育成を提案し、研修が実現しました。
68	県政の情報公開を進めます。	A	・「行政機関が保有する統計データについて、積極的に利用しやすい形でインターネット等で公開すべき」と一般質問で提案した結果、県オープンデータサイトが作られることとなりました。 ・「データを活用した政策提言コンテスト」を一般質問で提案した結果、実現しました。
69	県民の声を聞く機会を増やします。	C	・個人としては県政報告紙のほぼ毎月発行、県政報告会の毎定例会ごとに、計200名以上開催を通じて県民の声を聞く機会を増やしてきたものの、県の取り組みとしてはさらに取り組む必要があります。
70	大規模プロジェクトでは試算を早期公表します。	A	・エコパークかごしまについて、1期目に引き続き収支状況を注視し続け、委員会でも提案を行ってきました。
71	スーパーアリーナ構想について	Z	※構想の白紙撤回により、評価対象外とします。なお「新たな県総合体育館」についても「本来の目的は何か？誰のためのものか？」という点も含め、根拠のある慎重な議論に取り組みます。
72	「桜島トンネル構想」は費用対効果を慎重に再検討します。	Z	※特に進展がないことから、評価対象外とします。
73	県有財産の有効活用・「見える化」を行います。	A	・未利用県有財産の情報を、GISなどを活用しわかりやすく公開することを、委員会で提案しました。 ・農業試験場跡地や魚見の県職員住宅用地など、大規模な未利用県有地について暫定活用を、一般質問で提案しました。 ・1期目の取り組みの結果、鴨池ニュータウン駐車場用地の貸付料収入が、年間1千万円アップしました。
74	大規模県有地の有効活用に向け、県民・民間の知恵を集めます。	A	※No73「県有財産の有効活用・「見える化」を行います。」に記載。
75	公平に！未収債権の管理を進めます。	A	・陳情審査(鼓川急傾斜地)に際し、「債権回収を放置すれば、無資力となってしまい行政代執行にかかる費用が回収できなくなる恐れが高いことから、早期に債権保全や回収を行うべき」ことを委員会で指摘しました。 ・回収費用や無資力リスクを考慮し「なるべく早期に、効率的な債権回収を行うこと」を決算特別委員会で指摘した結果、委員会要望事項に盛り込まれることとなりました。
76	インフラ補修の選択と集中	C	・1期目に提案を行いましたが、今後高度成長期に建造した各種インフラが更新期を一斉に迎えることから、さらなる取り組みを進める必要があります。
77	公契約の人的費適正化(官製ワーキングプアを防ぐ)	C	・1期目に「コンプライアンス順守企業に発注すべき」等指摘しましたが、さらなる取り組みを進める必要があります。

(2) 外郭団体の徹底改革。「官」が不当に優遇されない鹿児島をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
78	指定管理者制度の透明化	A+	・「外郭団体に、競争なしの特定で出す」ことに反対し続けてきた結果、「公募」が実現しました。
79	外郭団体優遇の廃止	A	・道路維持(街路樹管理)の一部路線が外郭団体に随意契約で発注されていることの問題点を指摘し続けてきた結果、年々対象路線・事業費が縮小してきました。
80	県住宅供給公社の経営健全化	A+	・公共事業の総合評価において、従来「公社分譲宅地を取得または紹介したこと」が高い評価点で入っていましたが、それに対し「民間の分譲宅地と比べ不公平」「そもそも受注したければ公社の宅地を買え、というのはおかしい」と指摘し続けてきました。その結果、評価対象項目から外れることが決まりました。
81	県住宅供給公社：公平なやり方で再建を。	A+	※No80「県住宅供給公社の経営健全化」に掲載。
82	森林整備公社の損失処理	A	・すでに多大な含み損を抱えている分収林制度は国策で推進された以上、国に補填財源を求めるべきことを委員会で指摘し、県も開発促進協議会等で要望しています。
83	「埋蔵金」を県民の手に取り戻します。	C	・公益法人への移行が一巡したことから、大きな対象はありませんでした。一方で指宿スカイラインが当初の債務償還が完了したことに伴い、道路公社への出資金の取り扱いについては注視していく必要があります。
84	指宿スカイライン2期(谷山～頰娃)無料化	A	・2期区間は現在実質的収入(料金収入-徴収経費)は年間3千万円程度に対し、無料化すれば交付税算定で1億円程度付くことを明らかにし、「無料化したほうが県民にとってもお得である」ことから、一般質問で再三無料化実現を迫りました。根拠を持って無料化を推進しています。
85	指宿スカイライン3期(山田料金所)早期値下げ	A	・債務償還完了後の「25年延長案」(2042年まで)に反対しました。また「指宿スカイラインの無料化を実現します」をマニフェストに掲げ当選した知事に対して、マニフェストの実現を再三一般質問で追及しています。

(3) 将来の課題に今から対応できる鹿児島をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
86	川内原発：各県公平なリスク負担を求めます。	Z	※具体的な議論に入る場面がなかったことから、評価対象外とします。
87	クリーンエネルギーの開発・活用を進めます。	A	・周辺市町村がすべて賛同する場合には、風力に係る景観形成ガイドラインを一部緩和すべきであることを、委員会で提案しました。
88	空き家の有効活用を進めます。	C	・リノベーション事例などの情報収集に努めましたが、今後大いに課題となる事項であり、さらなる取り組みが必要です。
89	指宿枕崎線の利用環境向上を図ります。	A	・人口減少に伴い通勤・通学利用者の減少が予想される中、観光需要の創出に向けて、鉄道を利用した観光ルートの整備、観光地づくりを一般質問で提案しました。
90	臨港道路の建設促進など、産業道路・国道225号の渋滞緩和をすすめます。	A+	・議連として要望活動を行った結果、臨港道路の最後のミッシングリンクが着工することとなりました。 ・従来の道路との結節点における渋滞緩和に向け、議論を始めています。 ・クルーズ船に伴う渋滞を緩和するため、海上交通の整備を提案し、実現しました。
91	若者の投票率向上	A	・投票済証明書を活用した、民間が行う割引策などの振興を、一般質問で提案しました。
92	三島・十島をはじめ、離島航路の維持につとめます。	A	・黒島(三島村)の台風災害に際し、超党派の議員・当局の視察団を編成し、多くの人間で実情把握に努めました。結果、片泊港のケーソン破損への対応も迅速に行われました。 ・宝島(十島村)への原油漂着に際し、超党派の議員・当局の視察団を編成し、多くの人間で実情把握に努めました。

(4)まずは議会改革から。説明責任を果たす「見える県議会」をつくる。

No	タイトル	評価	主な取り組み
93	県議会の情報公開を進めます。	B	・個人としては、本会議配布資料(議案、予算書、委員会説明資料)のデジタル化を完了しています。今後はプライバシーに配慮した形で、傍聴者(インターネット傍聴も含む)に分かりやすく公開することができないか、他県の事例も含めて調査・検討していきます。
94	県議会の広報のあり方を見直します。	A	・個人としては、県政報告紙のほぼ毎月発行、県政報告会を200カ所以上で開催するなど、積極的な広報を行ってきました。 ・議会の仕組みとしては、代表質問・一般質問をテレビ深夜枠、コミュニティFMなどで中継し「見る目を増やす」ことを提案しましたが、予算等の関係で実現に至りませんでした。。今後も引き続き検討を続けていきます。
95	政務活動費の透明化を進めます。	A	・陳情審査に際し、一貫して領収書のWeb公開を主張し続けてきました(2018/12時点で継続審査のまま)。なお3月議会も継続審査の場合、自分の分は自主的に公開予定です。 ・全国で唯一残っていた「交通費の定額支給」(領収書なし)の廃止を主張し、実現しました。なお私はこの定額支給制度を初当選以来1回も使っていません。
96	議員特権を廃止します	B	・人事院勧告、人事委員会勧告に基づき一般職のボーナスアップに乗じて、議員のボーナスアップが提案された際にすべて反対しました。 ・自分に支給されたボーナスアップ分や審議会委員報酬については、県政報告紙発行用の特別会計に入れることとし、自分の懐に入れたい運用を貫いてきました。
97	充実した政策議論が行われる県議会をつくりまします。	B	・個人としては、再質問・再々質問を議長に制止されるほど繰り返し実践してきました。 ・一方で議会の仕組みとしては、「PC・タブレット類の持ち込み」(手持ち資料を充実させ議論の充実を図るため)を複数回提案するも実現に至っておらず、今後もさらなる取り組みが必要です。
98	鹿児島市内全域で、定例会終了ごとに県政報告会を開催します。	A+	・毎定例会終了後に鹿児島市内全域で県政報告会を開催し続け、計200カ所以上で開催し続けてきました。
99	毎月の県政報告紙、Web、SNSなどで県議会の情報を積極的に発信します。	A+	・県政報告紙をほぼ毎月発行し続けてきました。(4年間で40号以上)
100	企業献金を受け取りません。	A+	・企業献金を一切受け取っていません。

評価

85.37点

	点数	備考
A+	1.0	本会議・委員会等で提案を行った結果、新たな事業等が実現した。
A	0.9	本会議・委員会等で質問・提案を行い、県の施策を推進した。
B	0.7	本会議・委員会等以外で取り組んだ
C	0.6	前任期から継続して取り組んだ
D	0.0	取組が不足していた
Z	-	(社会情勢の変化等のため、評価対象外)